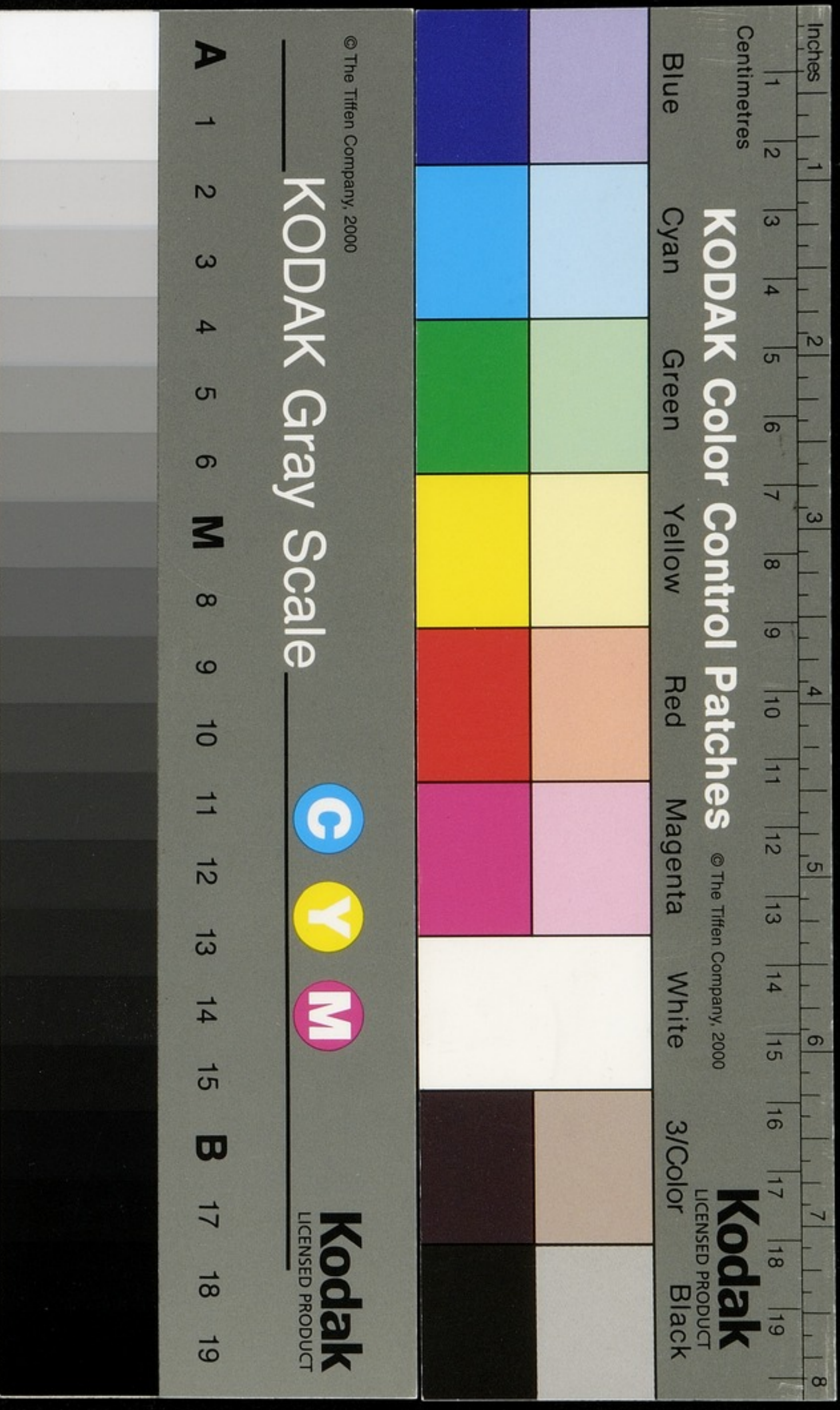




椿說弓張月
編前二

椿說弓張月 前編卷之二

鎮西八郎 椿説弓張月前篇卷之二
鳥朝外傳

東都 曲亭主人編次

第四回

老猴塔に登り主を辱しむ
病鶴笛を出し恩を答ふ

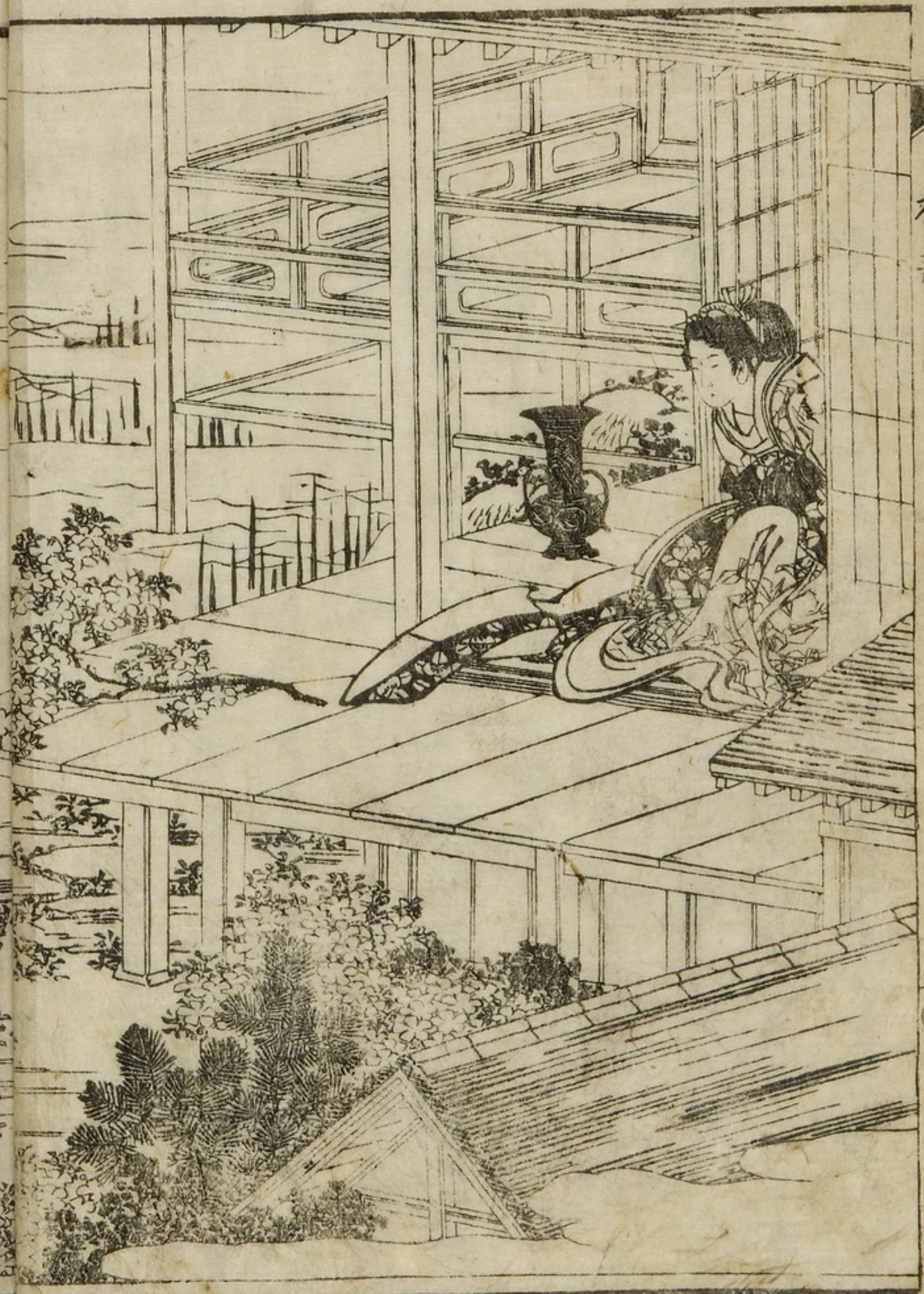
八郎冠者鳥朝の重季山雄を喪ひしより。春の夜の短きも。寝覺くもある夢の
来し。いづれを。あふや。うき。
中。一人の女子。白綾の袷。おあ。い。の。袴。紅。ある。一。枝。の。花。を。頭。挿。し。
る。端。然。と。枕。方。に。立。在。し。や。う。近。曾。君。の。書。ひ。を。ひ。き。吾。才。恙。あ。り。
つ。つ。れ。さ。み。今。告。す。あ。き。き。の。け。り。君。明。日。を。將。て。肥。後。を。
赴。き。阿。蘇。の。宮。に。は。り。あ。り。を。放。る。か。あ。い。と。艶。ふ。て。且。賢。き。妻。
を。娶。り。う。う。後。櫓。を。ひ。き。あ。る。と。あ。る。と。吾。才。彼。処。と。別。あ。る。と。以。



いもろく。つゝこの事を考ふる。近曾養ひを得る。その才恙ありつゝと
いひ。彼女子。模様を。つゝ。鶴。既。神。通。これ。吉祥を
告る。よ。思。られ。聊。疑。詰。初。主。權。守。季。遠。母。屋。引。り。物。つ
の。序。ふ。その。つゝ。ふ。ま。は。宣。つ。や。それ。一。隻。の。鶴。を。引。り。これ
曾。祖。義。家。朝。臣。の。放。せ。り。の。み。見。は。黄。金。の。牌。を。著。り。これ。を。肥。後。國
阿。蘇。の。宮。へ。納。め。せ。り。い。ふ。其。夢。を。蒙。り。て。苦。い。く。彼。地。は。赴。き
る。と。い。ふ。え。り。は。權。守。の。豫。る。爲。朝。の。智。勇。を。諱。怕。き。久。く。方。ふ
置。す。わ。せ。る。は。後。み。の。所。領。の。地。を。も。棄。れ。刃。の。仇。も。な。り。り。や。ち。ん。と。思。ひ
居。れ。折。あ。は。れ。は。僥。倖。と。潜。み。つ。つ。肥。後。の。阿。曾。平。四。郎。忠。景。の
子。は。二。郎。忠。國。と。い。ふ。武。士。あ。り。て。領。地。も。廣。く。家。も。富。さ。う。て。他。は。彼。人

あ。る。は。便。り。も。つ。つ。ふ。存。ま。は。勝。る。と。い。ふ。れ。は。て。は。あ。る。も。あ。る。に
は。神。垣。は。指。も。ん。ふ。何。う。苦。い。く。起。程。多。う。と。回。答。せ。り。は
爲。朝。あ。る。と。い。ふ。は。い。お。ぼ。く。や。と。野。風。と。名。づ。け。狼。を。紀。手。治。が。家
は。預。遣。し。族。の。ち。の。り。も。告。る。や。季。遠。が。下。郎。二。人。を。傭。ひ。て。鶴
を。放。す。あ。る。は。扛。擔。せ。回。舎。侍。の。私。は。物。指。さ。う。と。打。拵。り。次。の。日。肥。後。國
へ。赴。き。多。う。詰。兩。頭。は。分。る。と。い。ふ。又。肥。後。國。阿。蘇。郡。は。阿。曾。三。郎。平。忠。國。と
い。ふ。武。士。あ。り。り。阿。蘇。院。摩。球。磨。の。二。郎。を。領。し。家。隸。居。を。み。り。て
ア。ー。妻。ハ。そ。う。あ。る。人。の。數。は。入。女。只。一。人。あ。り。て。名。を。白。蓮。と。い。ふ。ひ。り
今。茲。二。ハ。の。ま。ま。を。む。り。て。嫁。白。蓮。と。い。ふ。數。ひ。し。れ。て。う。嫁。は。せ。ん。れ。婚。ま。す。と
い。て。彼。れ。より。い。ひ。ま。せ。り。白。蓮。さ。う。な。う。け。引。き。是。い。う。な。故。と。い。ふ。は。な
そ。が。風。流。し。れ。り。の。む。さ。き。勇。し。く。壯。夫。あ。る。が。き。平。は。太。刀。を。合。

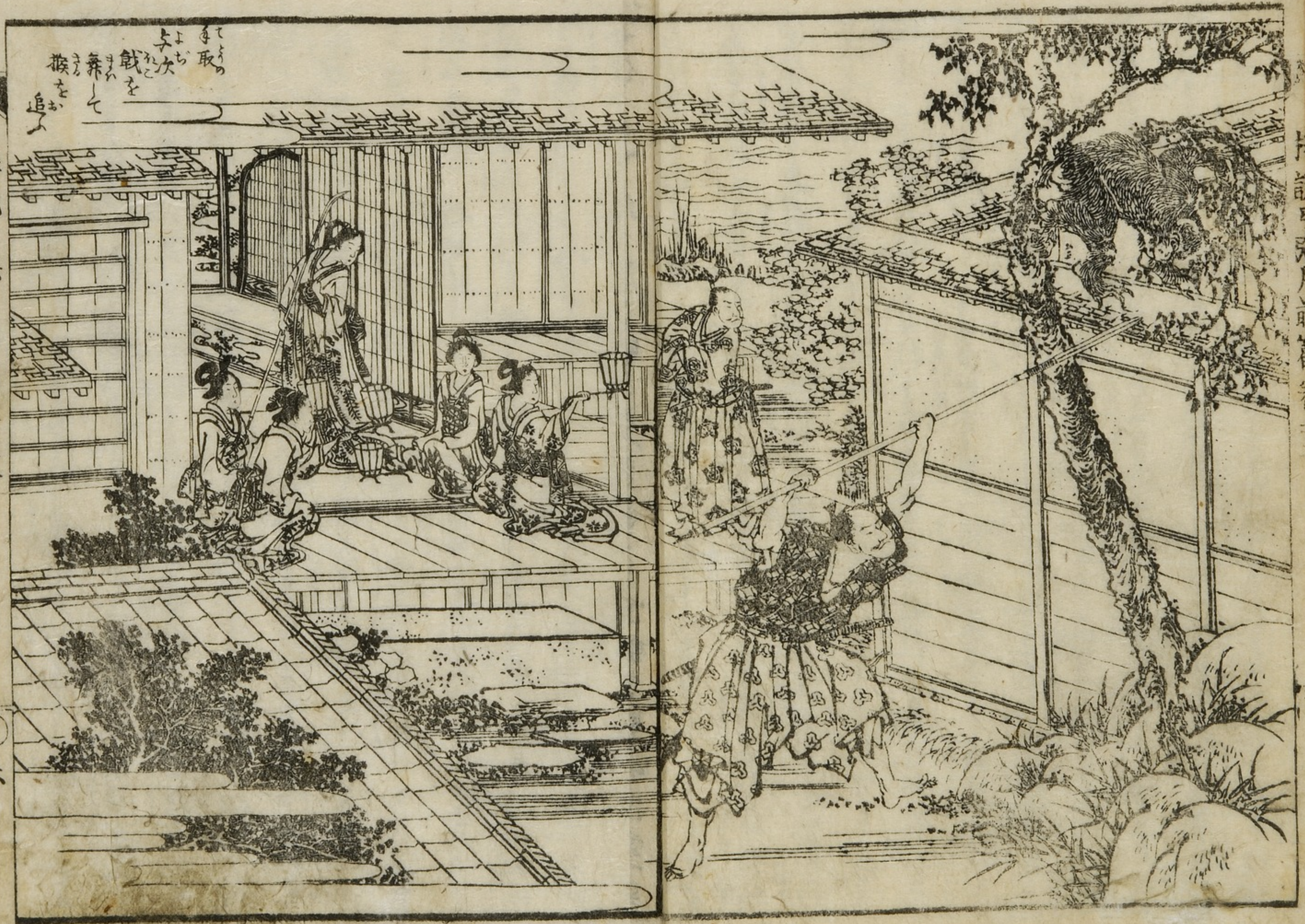
白綾の
 畜猴
 侍婢
 戯る



物語 江戸 前篇 卷之一

手取
 次
 戦を
 舞
 舞を
 追

春
 月
 前



月
 前

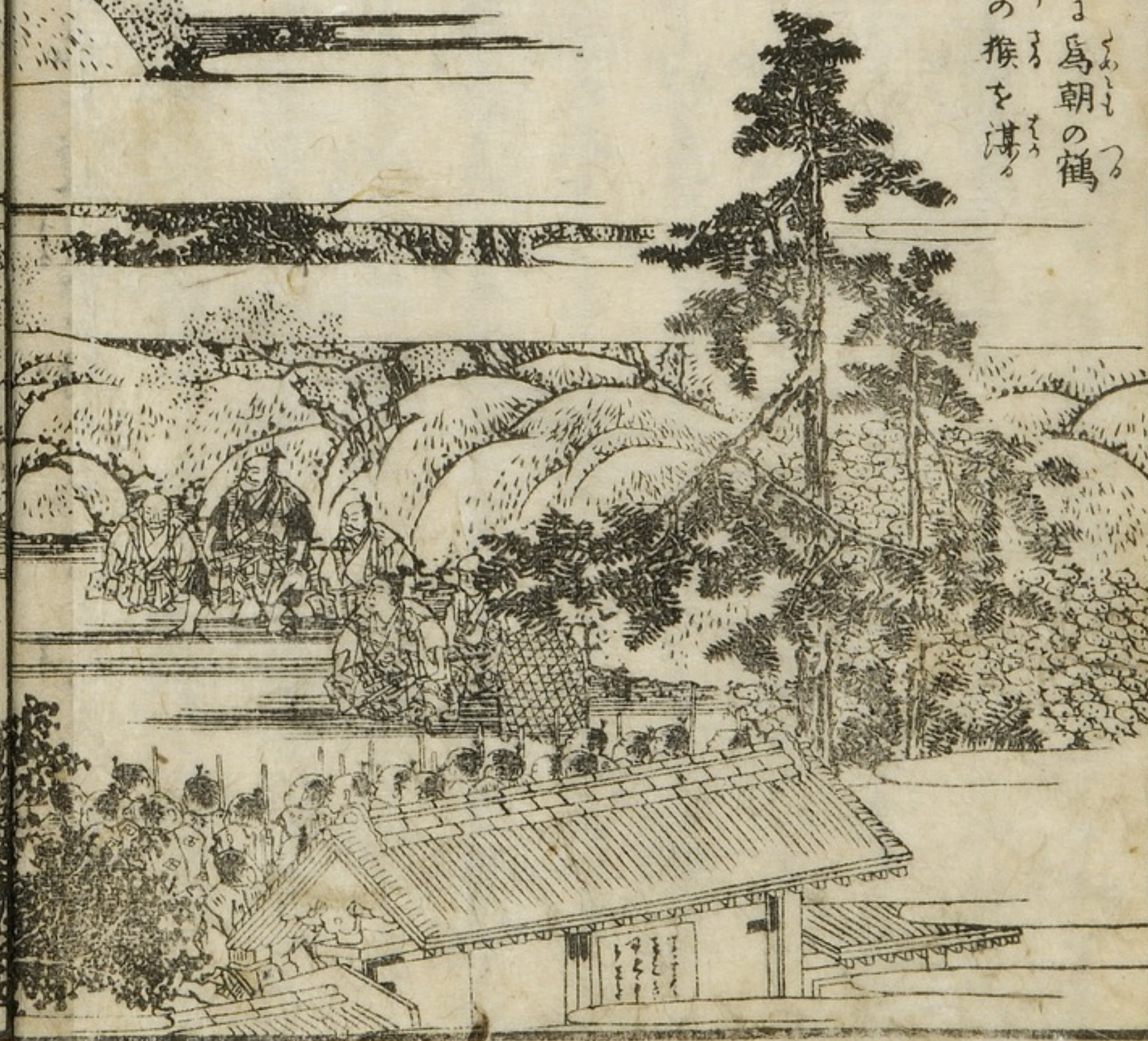
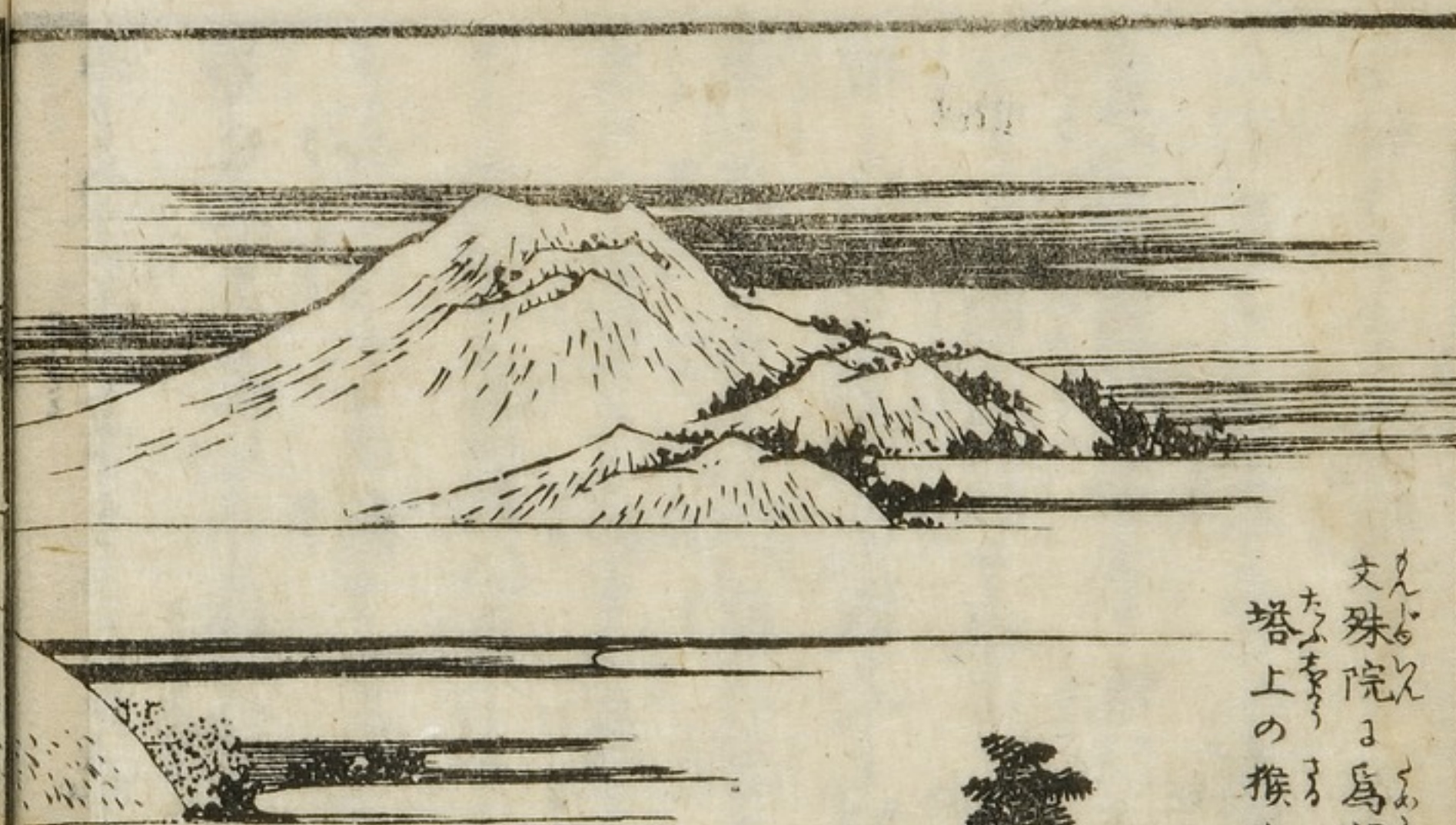
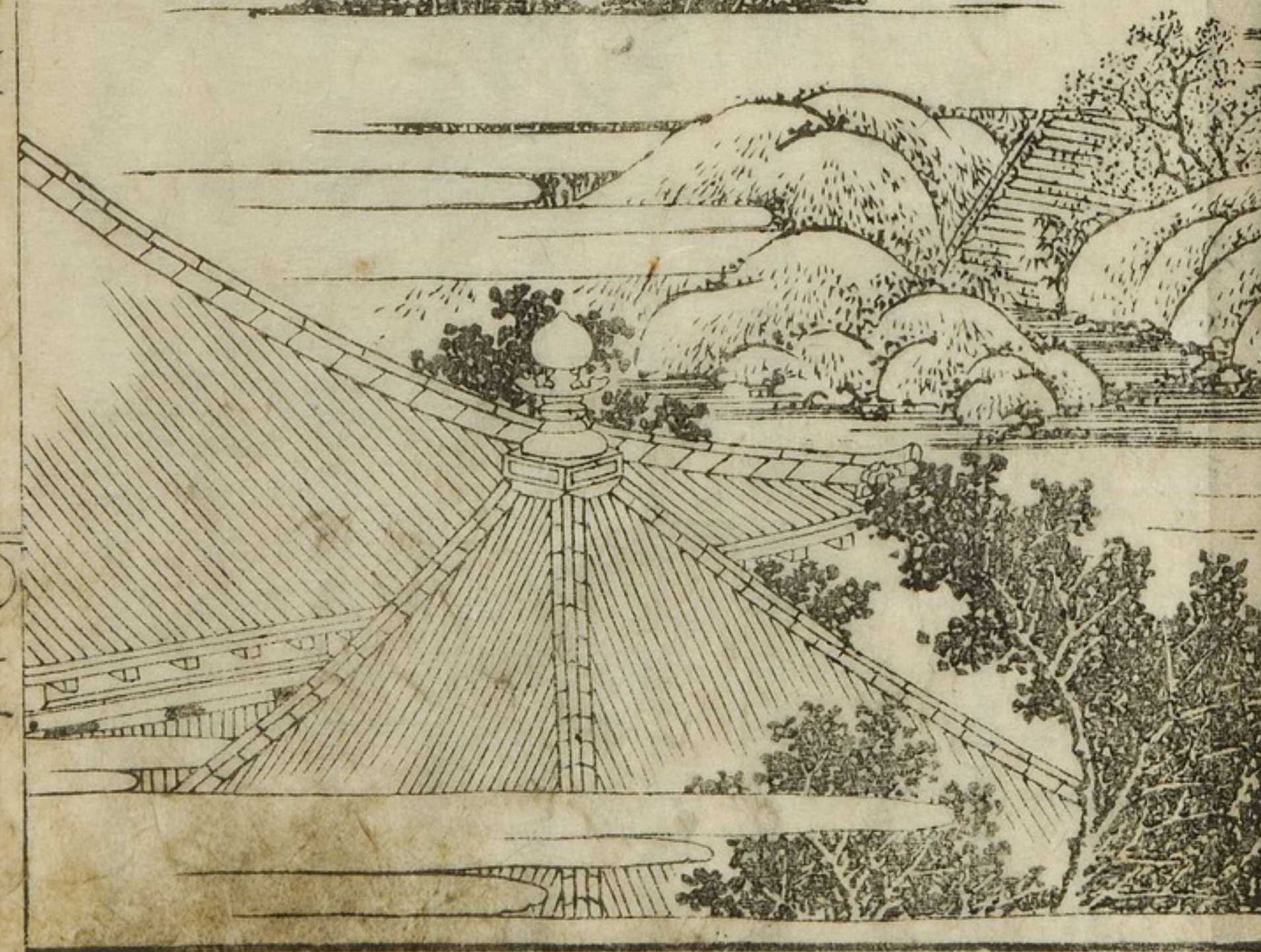
何とせんと連忙きかいさうつ索れども間毎の燈燭もく
たうてゝ海もさうく驛たもどくく火を索めも燭もく
く走り来れはといふ女使も乗ハ吭を啖破られ朱は染み死
はより血を踏む足跡ありて今人間のとくねい主従おは
怪つ。白縫あゝ沈吟してこの足跡をくくえもまう之もかき
猴の足も彼く逐まつてをふく怒と潜より来り間毎の燈火
を滅おにへ。乗を殺し逃しふ便よくせんが爲なりとおはし
蹤血を忍く捜せしと仰まれ老女ころをけし廊下破るふ
遣戸も鮮血城引く。樗子を押破るあり血この處もく止し
ふ猴ハナう入りて又より逃しつゝ人あど罵る間。女使も
女使もや走り来り駭きさきまう懷劍を取りて探索ふ
も又ええもこの時父の忠國も忙しく走り来り白縫ハ憤り
堪も。猴若乗は淫まんとしてるもあう。落もく物
忠國はく大に怒り。その許まきりのあも。おはし
るせく焦燥ハ一人の女使走りしきその旨を告ぐ。時
手取の次次同ふ三郎大矢新三郎越矢源太松浦二郎吉田共衛打
手紀ハ高間三郎同四郎あんと一人當千の家隸も。庭門より走
来れは。時忠國端ちう立出。如此くのも木を伐草拔を
らひても。彼猴を追ひ捕く打殺や。ときすにあう仰まれ皆集
る。回答して東西より走り来れ蕉火よりして。館の四隅を索
る。くえくその音くせも。く西の衡門のくあて。只今
垣を越く逃しものあり。手取次月影は遠く。手戟をつ

一、つゝ忽地松を木付つゝ。外面へ跳立ち。さう猴へ門外へ逃れかゝる。
 かく逐多くと呼ぶ。衆皆とみ集来り。門をさし押しき。花ごゝと
 追越り。奥は阿蘇山の片なり。又殊院といふ古寺あり。此
 國熊本と同名の寺。弘法大師の開基なり。あうべき伽藍とて。件の徒ハ此
 寺の門前。彼猴を追つめ。今ハ易しと思ひ。外猴ハ築牆を跳こえ
 裡に入り。塔の火珠より走り登りぬ。まづ彼が往方ハ定めり。さう
 裡ふつてこそといひたまきつ。慌し門扇をうち敲き。阿曾忠國の家
 隸も。あうぐのりふくまねり。門を披たぐと音なり。門守の老翁を
 いと回答るむりふて傾め。披たぐと音なり。後ややく門
 を披たぐ。衆皆裡に入り。れど。輒捕へんやうもなり。是ハ。むち。塔
 城より瞻り。明のくを結のく。既ハ東もあふ。鳥の森林をさ
 け。鳴声する。山際むき。陽旭少し。忠國馬
 をさやめ。居多の士卒を領し。まう。この光景をえ。あれ射
 落や。焦燥も。この塔五重あり。まき岳の上あり。前ハ怪松
 屈曲として枝をば。霞波龍雲。聳立。亭とて。いづくの窟を
 あら。縦養由李克用なり。射とん。あう。あう。勅
 射損。たふ。吾の。主君の辱なり。さう。れ。美。人。つ
 もの。さ。猴へ遙く人城直下。虎をさ。へむけ。打。或ハ
 睡。さ。その。形勢いと。接。忠國。歯を。切。り
 大に怒り。安。ぬ。家累代。武門。列。れ。又。不肖。せ。り
 一。く。人の。爲。蔑。られ。も。あ。この。畜生。我を。恥。か。の。に。

かききをありし人法然とてうち歎くごとく。浩処は當寺の
住持。この寺を浅き人職事僧を遣りて。忠國よのせらる。抑も
山へ仁明天皇の勅願あり。弘法大師の開基なり。持て彼塔を勅
封の仏舍利を納る。これに對ひて弓を引ん。朝敵佛敵を討
る。且縦彼猴罪ありとも。一とい寺内より。のを無下小殺せん。
法師の忍びざる所なり。彼といは是といひ此。宿免は預る。速
ち忠國は眉を蹙。彼猴灵場は走り入る。既小人を殺せ
し。敢て怒すべし。あるあれ。勅封の佛舍利を納る宝塔
小對ひて矢を發せん。後難をうがじ。何せん。怒同。爲
朝も用意忽地相違。舊の處へ退き。人へ猴は。い勢力出て。指
さし。取る事。とめ。忠國は。憤て。堪む。爲朝は。の

中ふく。事。を。今。猴。を。射。ん。易。れ。と。う。ち。あ。ま
む。せん。ま。じ。り。彼。八。町。礫。紀。平。治。と。あ。る。や。う。矢。を。用。ひ。て
打。落。す。の。難。き。と。あ。る。と。い。ふ。と。國。を。隔。た。れ。は。い。れ。も。い。な。い。か。ど。
こ。さ。は。か。う。さ。は。思。ひ。屈。し。多。う。彼。鶴。節。の。中。に。あ。り。て。俄。頃。は。羽。を。き。し
あ。つ。て。飛。出。ん。と。欲。する。氣。な。な。れ。ば。爲。朝。又。さ。う。て。め。う。ひ。曉。得。の。こ
鶴。の。夢。は。生。け。ず。阿。蘇。の。宮。の。不。と。り。み。と。放。て。よ。と。い。ひ。は。る。の。事。は。て
彼。は。う。ち。を。さ。る。の。あ。る。か。ま。へ。深。く。疑。ふ。べき。小。あ。る。と。て。膽。大。く。も
重。く。忠。國。は。對。ひ。それ。う。ち。矢。を。用。さ。し。猴。を。打。落。進。ま。し。と
宣。へ。忠。國。斜。に。も。悦。び。て。既。に。宣。あ。る。と。あ。る。幸。と。れ。は。や。う。さ。の。あ
ら。し。と。う。ち。用。意。多。く。と。回。答。せ。り。爲。朝。は。う。ち。祈。清。し。の。結。の。門
を。ひ。き。ま。う。ち。豫。め。と。う。ち。放。へ。思。ひ。れ。は。足。が。舊。の。と。う。ち。牌。を。着

文殊院は鳥朝の鶴
塔上の様を満る



鶴ハ如をゆるとやうて。虚空遙小翔揚リ。いへも志なきなりより。
 忠國主従はさうなり。足をもつるの冷笑ひ。こゝ鳴呼なる愚者もあふ。
 うな鷺鵬なんどこそ。猴をも捉ふめ。鶴の獸を捉といふひへえくひも。
 及つてされへこそ。あふも教へて飛せなり。なとさうめきなり。鳥
 朝もこの光景は。あふひ疑念を生じ。そこの空をうち眺ておひなり。
 且くく彼鶴ハ西のうこそ。翔まり。塔の火珠ををちあふ。一丈さう
 ふく。あふも。翔居るを。猴はうち仰き。瞬もせ。ちうくさふ。
 掴も。あふも。さうなり。鶴ハあは高く翔低く翔く。やその間ちうく
 ちうく。あふも。あふも。猴ハ大は慌忙き。火珠を走り。下り人とさうとさう。
 鶴ハさとおし。まう。嘴りく。丁と衝さうなり。猴ハ心地血は塗れ。
 ぐ。撞と墮鶴ハ高く翔あふ。南を投て。飛去り。これを。

まあ、声を揚、鳴呼と感、鳴も已き、忠國の喜ひは堪、爲朝とも
 小彼、猴をえ、猴ハ脊より胸さうを、け、ぬれ、死、目鼻
 の間ハ、砂のか、あり、忠國、掌を拍、い、あ、彼
 鶴、う、地、も、あ、飛、い、この砂を、銜、来、猴の、眼、や、せん、爲、なり
 飛、禽、と、事、臨、く、剛、敵を、拉、く、その、智、を、さ、る、も、鳴、呼
 奇、なる、れ、と、嘆、賞、更、爲、朝、對、く、禮、儀、を、正、く、その、身、の、い、あ、あ、
 人、な、れ、輒、く、仇、を、亡、く、ひ、る、り、仙、境、の、客、な、く、ま、ハ、必、ま、名、は、武、士
 ぢ、人、今、日、の、ゆ、い、と、不、思、儀、い、く、ハ、爲、朝、合、笑、く、名、告、り、さん、も、鳴、呼、は
 と、あ、れ、と、父、爲、義、不、貞、を、切、く、豊、後、の、う、こ、を、寓、せ、ハ、即、爲、朝
 と、い、ふ、の、も、彼、鶴、の、ゆ、い、つ、き、て、種、く、れ、物、う、り、あ、ま、と、一、朝、あ、ハ、説、盡、け、
 一、れ、幸、ふ、一、れ、身、の、う、り、な、く、い、と、う、ろ、と、さ、く、い、と、官、人、ハ、忠、國、且、驚、き、且

られし。いさ。この國のひもけぬ源家の出曹司にて在せし。器量骨柄平
人か。い。と。人。さ。あ。い。せ。果。して。ま。う。し。れ。じ。不。女。あ。れ。も。ろ。矢。と。る。の。数。あ。も
入。ま。う。り。蟬。ひ。も。あ。ま。い。女。兒。白。縫。を。進。て。あ。う。晋。秦。の。好。を。締。り。い。ふ
諾。あ。ひ。も。う。く。と。い。へ。鳥。朝。も。と。希。と。と。親。兄。身。も。遠。さ。う。て。ね。む。と。あ。れ
あ。は。あ。ま。い。よ。き。計。り。も。う。り。い。と。宣。ふ。あ。そ。阿。曾。の。家。隸。も。う。ろ。と。う。り。限。り
あ。う。ま。万。歳。と。も。祝。き。る。か。う。忠。國。の。鳥。朝。を。伴。ひ。士。卒。を。持。て。さ。う。誰。も。あ
へ。れ。住。持。の。聖。僧。の。彼。候。が。死。を。哀。し。う。なる。罪。犯。あ。う。も。せ。よ。う。寺。に。迎。え。來
し。もの。を。遂。に。救。ひ。お。さ。り。し。う。を。し。て。屍。を。山。門。の。外。に。埋。ま。せ。う。ひ。を。好
む。もの。これ。が。墓。碑。を。作。て。名。づ。け。候。塚。と。い。ひ。ら。と。あ。ん。

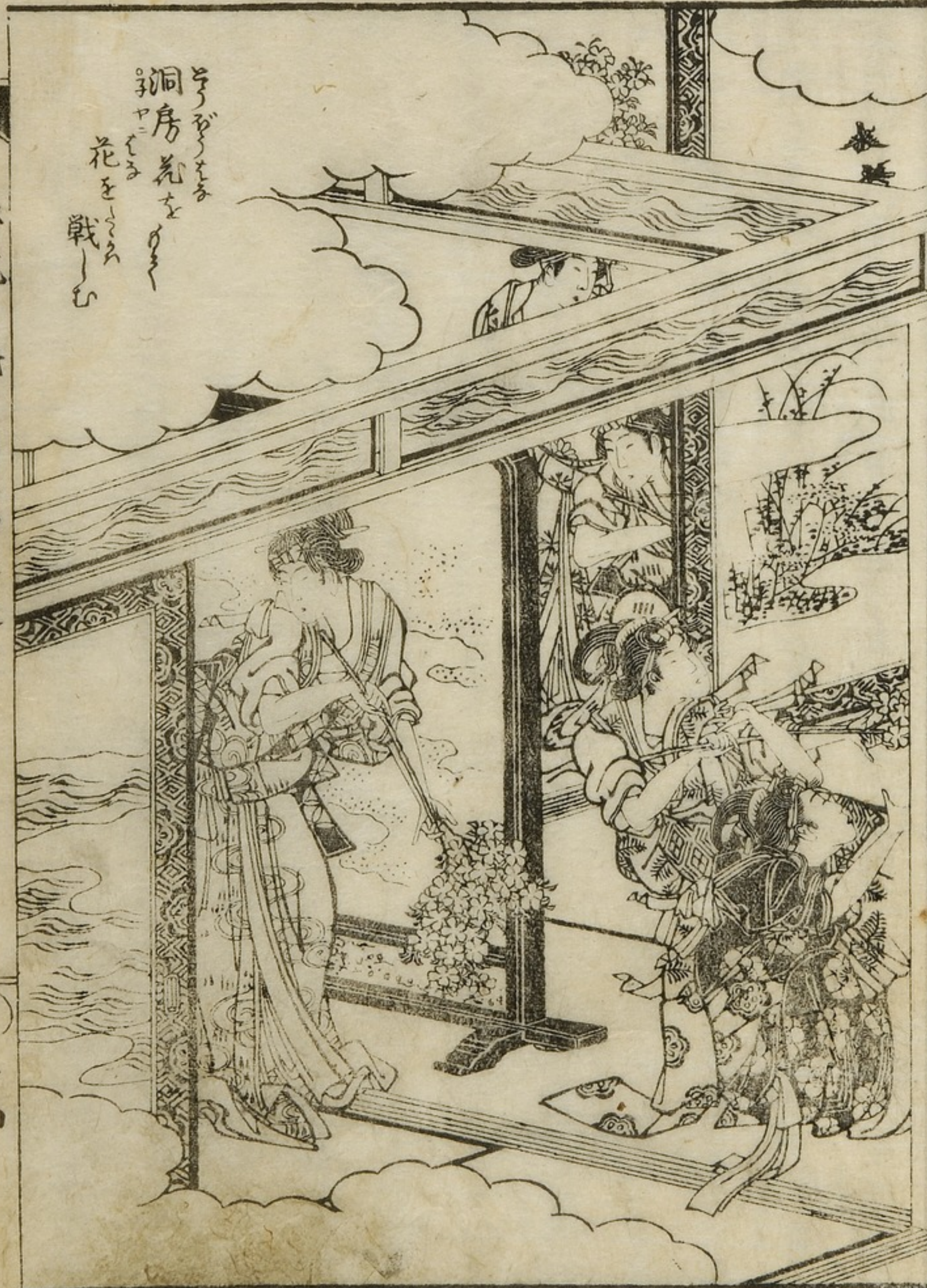
第五回

白縫風流女兵を操る
鳥朝勇敢九州城伏す

阿曾之郎忠國ハ當日鳥朝を伴ひ。う。厚。く。管。待。し。女。兒。白。縫。あ。も
あ。う。の。物。う。り。し。只。顧。る。の。智。勇。を。稱。賛。ま。され。と。白。縫。ハ。い。さ。鳥
朝。の。為。人。を。あ。う。さ。れ。は。と。こ。あ。も。美。引。さ。う。し。彼。人。ハ。父。の。為。に。取。辱。を。受。け
る。恩。あ。れ。は。その。契。約。を。破。らん。義。ま。う。さ。う。し。思。ひ。入。り。と。も。か。り。と。回。答
し。忠。國。大。に。よろ。こ。び。し。や。う。く。日。を。ト。吉。席。を。設。け。酒。食。盃。盤。を。あ。ら
わ。せ。る。悉。災。を。竭。し。その。夕。鳥。朝。ハ。白。縫。を。妻。あ。つ。せ。り。か。う。し。婚。姻。の。式
も。果。て。後。一。人。の。老。女。燭。を。秉。り。前。す。と。鳥。朝。ハ。案。内。し。と。白。縫。の。卧。房。に
誘。ひ。つ。廊。の。あ。り。と。ま。つ。る。時。に。彼。老。女。ハ。う。て。此。処。に。お。姫。の。外。房。に。お
と。い。ふ。鳥。朝。ハ。何。氣。あ。う。や。ま。う。障。子。を。あ。け。て。入。り。へ。忽。ち。白。縫。を。あ。い。衣。を。う。襲
ふ。素。練。の。玉。禱。う。け。る。女。子。二。人。は。一。枝。の。櫻。花。を。食。み。う。う。と。声。け。て。お。ん
と。う。を。鳥。朝。腰。る。扇。を。う。り。九。右。を。丁。と。う。ち。落。し。す。と。い。ふ。人。と。あ。い。入。り。



そのどろろを
洞房花を
花を
戦い



風^名を牽^{ひきつ}妻^まの八代^{やちろ}を將^いと豊後^{ぶんご}よりすかりし。爲朝^{ためあき}よりこの
おほしき町^{まち}に扶持^{ふち}し。さふいさで隨^{したが}ひのを討^{うち}ひて九洲^{くしゅう}を
一統^{いつとう}す。て既^{すで}に合戦^{くわせん}の用意^{ようい}をす。折^{しや}りも菊池^{きくち}原田^{はらだ}が徒駭^{とがい}の
軍兵^{ぐんべい}を領^{りやう}し。寄^よせまふと父^{ふち}え。祓^{はら}は先^{さき}も。此^{こゝ}の軍兵^{ぐんべい}を驅^く催^{もよほ}し。
阿曾^{あそ}忠國^{ちくに}を案内^{あんない}者^やとし。彼城^{かのしろ}に推寄^{おしよ}せ只^{ただ}一戰^{いちせん}に切^き從^{したが}ひ。これを
軍^{ぐん}のよきとめ。て城^{しろ}を落^{おち}し。十餘箇^{じゆじゆかん}所^{しよ}凡^{およ}二十餘度^{じゆじゆど}の合戦^{くわせん}
は。一度^{いちど}も後^{あと}をとり。爲朝^{ためあき}の強^{つよ}き武畧^{ぶりやく}は。士卒^{しそ}の勇^{ゆう}
き。中^{なかつ}も。紀平^{きへい}治^ぢが礫^{れき}手^て取^とふ次^{つぎ}に組打^{くみうち}亦^{また}是^{こゝ}萬夫^{まんぷ}不當^{ふたう}。加旃^{かせん}敵^{てき}
陣^{ぢん}を夜討^{ようち}し。時^{とき}に彼野風^{かののふぜ}と。痕^{あと}する陣中^{ぢんちゆう}に潜^{ひそ}み。夜巡^{よすま}し。此
兵士^{へいし}を啖^{くは}殺^{ころ}し。主^{しゅ}を引^ひ入^{いれ}。是^{こゝ}より。せし。と。爲朝^{ためあき}は只^{ただ}一歲^{いちざい}中^{ちゆう}
は九箇國^{くくく}を平吞^{へいどん}し。筑前^{ちくぜん}國^{くに}太宰府^{たさいふ}に居城^{きやうじやう}を構^{かま}へ。撫^な追^お補^お使^し
と。賞^{しょう}罰^{ばつ}を掌^{つかさど}り。稅^{ぜい}斂^{れん}を薄^{うす}し。寬^{かん}仁^に政^{せい}を施^ほし。國民^{こくみん}稱^{ほめ}讚^{さん}し。鎮西^{ちんせい}八郎^{はちらう}どのと。不^ふ題^{だい}少^{せう}納^{なつ}言^{ごん}入^{ごん}道^{ごん}信^{ごん}西^{ごん}は爲朝^{ためあき}
をい。憎^{にく}む。彼人^{かのひと}豊後^{ぶんご}へ下^{くだ}り。後^{あと}も。人^{ひと}を遣^{つか}へ。をり。その形勢^{けいせい}を
探^{さぐ}ひ。せ。この丁海^{ていかい}香推^{かうすい}宮^{みや}の神人^{かみん}に内通^{ないつう}す。備細^{びしう}は。折^{しや}りも
ま。お。ひ。居^ゐる。久壽^{きうじゆ}二年^{にんねん}の春^{はる}。一院^{いちいん}鳥羽^{とりは}鳥羽^{とりは}の成菩提^{じやうはつだい}院^{いん}の御所^{ごしよ}
は池^{いけ}を掘^ほらせ。い。祓^{はら}は。是^{こゝ}に究竟^{くわうけつ}の。よ。と。い。潜^{ひそ}み。上皇^{じやうかう}は。父^{ふち}
え。の。ハ。誠^{まこと}中^{なかつ}人^{ひと}爲義^{ためぎ}。ハ。男^{おとこ}なる。爲朝^{ためあき}筑紫^{ちくし}は。あり。奇^きに。鶴^{つる}
を獲^えり。と。の。の。鶴^{つる}ハ。む。義家^{よしか}が放^{はな}せ。の。今^{いま}は。黄^{わう}
金牌^{こふがい}を著^つる。形^{かたち}ハ。鶴^{つる}より。も。太^{おほ}き。鳴^な声^{こゑ}高^{たか}く。は。人^{ひと}を。
く。爲義^{ためぎ}ハ。仰^{おほ}す。彼鶴^{かのつる}を。の。池^{いけ}の。け。放^{はな}す。い。愛^{あい}を。か。と。

宣^{さう}け^きま^ま上^{じやう}皇^{かう}諾^{だく}あ^あい^いせ^せ多^たひ^ひ。次^{つぎ}の^の日^ひ爲^な義^ぎを^を召^めさ^さし^し。鶴^{つる}を^を進^{すす}ら^らせ^せき^きよ^よを^を仰^{おほ}せ^せられ^れる。爲^な義^ぎ朝^{ちやう}臣^{しん}の^の院^{いん}宣^{せん}の^の趣^{しゆ}を^をう^うけ^け多^たり^りて^てふ^ふく^く怪^{あや}し^し。之^{これ}彼^か爲^な朝^{ちやう}の^の故^こあり^り。西^{さい}國^{こく}へ^へ逐^{おひ}下^{くだ}し^し。年^{とし}来^{きた}通^{とう}路^ろを^を絶^{こと}つ^つく^くべ^べか^かる^るこ^こと^とあり^り。も^もみ^みま^まふ^ふで^でい^い。何^{なん}人^{ひと}の^の聞^{きこ}え^えよ^よく^くま^ませ^せあ^あや^やん^んふ^ふ試^しよ^よい^い遣^{けん}じ^じべ^べ。も^もち^ち出^で多^たひ^ひる^るが^が。當^{たう}日^{じつ}俄^が頃^{ころ}の^の物^{もの}馴^なれ^れる^る家^け隸^{れき}秦^{しん}次^じ郎^{らう}景^{けい}延^{えん}と^とい^いふ^ふの^のを^を太^{たい}宰^{さい}府^ふへ^へ起^{おこ}程^{てい}せ^せ。彼^か鶴^{つる}を^を進^{すす}せ^せし^しと^と仰^{おほ}遣^{けん}され^れ。極^{ごく}る^る秦^{しん}次^じ郎^{らう}ハ^ハと^とり^りの^のも^も取^とり^りあ^あむ^む。汗^{あせ}馬^ばハ^ハ鞭^{むち}を^を鳴^ならし^し。益^{ちやう}夜^やの^のこ^こも^もあ^あく^く路^ろを^を馳^ちす^す。日^ひあ^ある^るに^に宰^{さい}府^ふに^に到^{たう}着^{ちやく}。景^{けい}延^{えん}大^{だい}殿^{でん}の^の仰^{おほ}せ^せあり^り。す^すか^かま^まり^りと^とや^やせ^せ。爲^な朝^{ちやう}の^のて^て對^{たい}面^{めん}あり^り。い^いふ^ふや^や景^{けい}延^{えん}何^{なん}の^の所^{しよ}用^{よう}あ^ある^る下^{くだ}り^り。父^ふハ^ハ恙^やなく^く在^ある^る。勸^{くわん}氣^きを^を許^{ゆる}す^す人^{ひと}の^の使^しあ^あふ^ふぬ^ぬと^と宣^{せん}へ^へ。景^{けい}延^{えん}答^{こた}へ^へ。大^{だい}殿^{でん}を^をむ^むめ^めす^すか^かれ^れ。兄^{あに}弟^{てい}と^とな^な壯^{さう}健^{けん}お^おい^いは^はし^しり^りへ^へ。は^はら^らこ^こ路^ろ易^{やす}く^くお^おい^い。召^めさ^さる^るべ^べ。且^{かつ}そ^それ^れが^が。領^{りやう}の^の使^しを^をう^うけ^け多^たり^り。す^すか^かり^り。ハ^ハか^かる^るの^のこ^こ。一^{いち}院^{いん}鳥^{とり}羽^う上^{じやう}皇^{かう}より^{より}鶴^{つる}を^を求^{もと}め^めせ^せる^る。首^{くび}尾^びを^をお^おち^ちも^もあ^あく^く述^{のこ}す^す。け^けま^まハ^ハ爲^な朝^{ちやう}の^のち^ち。秘^ひす^すき^き。その^{その}鶴^{つる}ハ^ハ去^き年^{ねん}の^の暮^{くれ}春^{はる}如^{ごと}此^こ。け^ける^るの^のあ^あく^く放^{はな}遣^{ちやう}す^す。今^{いま}ハ^ハ遙^{はるか}不^ふ遠^{えん}も^も狂^{くる}り^り。り^り。その^{その}頃^{ころ}ハ^ハか^かる^る仰^{おほ}せ^せを^をう^うけ^け多^たり^り。ハ^ハ推^{おし}辞^じす^す。ま^まハ^ハあ^あふ^ふね^ね。既^{すで}に^に放^{はな}す^す。あ^あす^すこの^{この}月^{げつ}日^{じつ}を^をさ^させ^せ。ハ^ハい^いふ^ふも^もせ^せん^んま^ま。一^{いち}と^と何^{なん}も^もさ^さる^るよ^よう^う。ま^まに^に宣^{せん}す^す。秦^{しん}次^じ郎^{らう}も^も沈^{ちん}吟^{ぎん}。あ^あく^く學^{がく}を^を失^{うしな}ひ^ひ。ま^まど^ど。あ^あり^り。爲^な朝^{ちやう}又^{また}宣^{せん}す^す。ハ^ハれ^れ縁^{えん}故^こを^を惜^{おし}し^し。こ^これ^れハ^ハ信^{しん}西^{せい}の^の謀^{ぼう}あ^あ。こ^これ^れを^を憎^{にく}の^のあ^あり^り。鶴^{つる}を^を放^{はな}す^す。その^{その}を^をう^うけ^け多^たり^り。知^しら^らず^ず。顔^{がほ}。近^{ちか}日^{じつ}獲^える^る。ま^まに^に奏^{そう}す^す。ま^まに^に。お^おい^い。ま^まに^に鶴^{つる}ハ^ハ放^{はな}せ^せ。と^と陳^{ちん}す^す。ま^まに^に。實^{じつ}事^じも^もあ^ある^る。ハ^ハれ^れ。ハ^ハれ^れ。他^たハ^ハ鶴^{つる}を^を進^{すす}せ^せ。あ^あの^の君^{きみ}と^と父^ふを^を欺^{あざむ}く^く。只^{ただ}命^{めい}運^{うん}を^を天^{てん}に^に任^{まか}せ^せ。あ^あの^のさ^さ。ハ^ハ告^つす^す。ま^まに^に宣^{せん}い^い。秦^{しん}次^じ郎^{らう}ハ^ハ八^{はち}町^{ちやう}礫^{れき}紀^き平^{へい}治^ちを^を

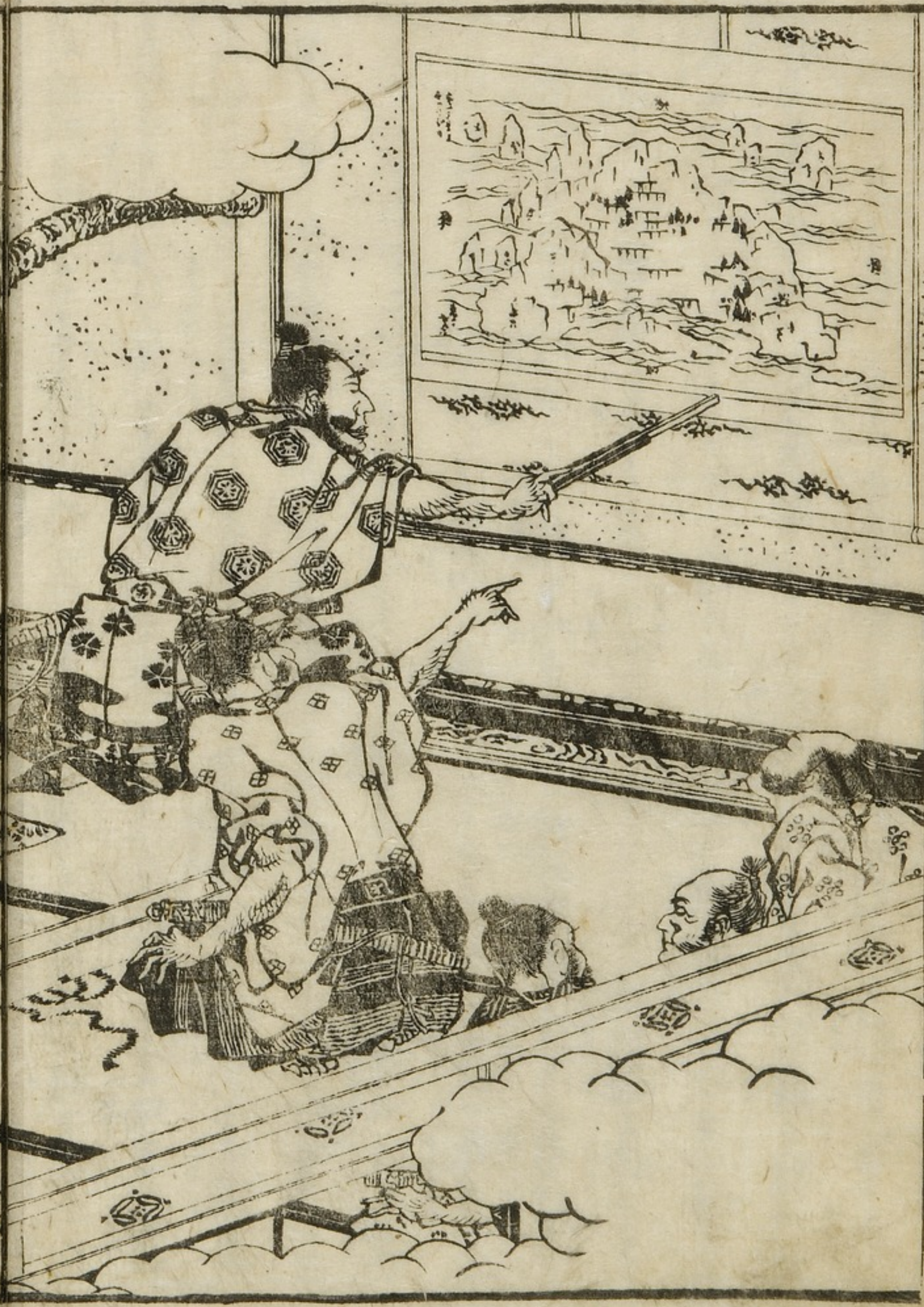
指副さしうしやうて治さへのさのさ多おほく。すうは景延紀平治けいえんきへいしの只管路ただかんろを急いそぎまゝ
 我われ日もあゝぬぬ歸かへりのさなり。直ただは義朝臣ぎていしんは見えみええすえかえせ景延けいえんすえづえ爲
 朝あその書呈しよせいを獻けんままへ紀平治きへいしの爲朝ぎていの書しよりりししるる所ところを審しんは演説えんせつせり。
 爲義朝臣ぎていしんへ縁由えんよしをききき大おほに愁うれひひ多おほく爲朝ぎていの物ものを惜をめて父ちちの禍わざはひを顧かへ
 するのあゝねねはよよ偽いつはりのあゝあへへるるをききき讒者ざんしや路みちは横よこままへへいういうなる
 御智みちを衆しゆも量りやうぐぐににされさればばて放はなるる鶴つるををいいるるをを只ただ爲朝ぎていがが旨ち
 ををすすくくんんををててややてて院いんの御所ごしよににありあり。爲朝ぎていの鶴つるを獲えるるにに去年こぞの
 春はるににふふるる。そのその放遣はなちやののいいふふももせんせんままくく迷惑まいわく只ただこの
 子このああととひひええなるる上皇じやうかうののままりりああるる。爲朝ぎていの近曾ちんそう宰府さいふ
 はありあり。武威ぶいかいを逞たくまままととなりなり。鶴つるを放はなせせととの偽いつはりのの惜をめてめせせぬ
 ああへへ。その罪つみこれ違勅ちがひちくははととり速すみにに進すすめめるる父ちち爲我ぎがを解官げくわんせせぬ。
 前檢非違使ぜんけんひたいしははととり仰おほれれば爲義ぎぎ恐懼きうぐ。六條りくじやうの館くわんにに退ひきききるる
 多おほく子息しよしきををひひああるる。このこのいいふふととててよよんんとと錢せんのの多おほく嫡男ちやくなん左馬頭さまたう
 義朝ぎていのの下野守げのしゆしああととああせせるる。宣のたまふふ。普天ふてんの下王げわう土つちはあ
 ららるる。今いま院宣いんせんははととり彼鶴かいつるを索もとめめるる。ややハ獲えむむといいふふののああるる。
 されどされどの往方かうへををととり定さだめめるる。索もとめめるる路みちははととり欽播磨守きんはりしゆし阿陪易あはいえき読よみ
 ト並ならびび妙たふなりなり。このこの人ひとは同どうく有無いうむををああせせるる。宣のたまふふ。爲義ぎぎけけふ
 ととああるる。俄頃いつしうは易読えきよくを招まねき放はなせせ鶴つるの往方かうへを同どうく易読えきよくをを
 一考いつかう。この鶴つる遠とほく去さりり今いま日本やまとの地ちは留とどめめるる。琉球國りうきゅうこくは渡わたるる
 索もとめめるる。百日ひやくにちを生いだだすす。輒しづく得えるる。之これをを爲義朝臣ぎていしんののああるる。又また難がたははととり
 一層いっしやうの憂うれひをを増ますす。この國このくにの中のちうににああるる。天あまの鳥とりを索もとめめるる。いと難がたははととり
 琉球りうきゅうすすくくちちりりひひるる。容易やすき業わざはああるる。されど彼國かくにへへは到いたるる。百日ひやくにち同どうふ

前檢非違使ぜんけんひたいしははととり仰おほれれば爲義ぎぎ恐懼きうぐ。六條りくじやうの館くわんにに退ひきききるる
 多おほく子息しよしきををひひああるる。このこのいいふふととててよよんんとと錢せんのの多おほく嫡男ちやくなん左馬頭さまたう
 義朝ぎていのの下野守げのしゆしああととああせせるる。宣のたまふふ。普天ふてんの下王げわう土つちはあ
 ららるる。今いま院宣いんせんははととり彼鶴かいつるを索もとめめるる。ややハ獲えむむといいふふののああるる。
 されどされどの往方かうへををととり定さだめめるる。索もとめめるる路みちははととり欽播磨守きんはりしゆし阿陪易あはいえき読よみ
 ト並ならびび妙たふなりなり。このこの人ひとは同どうく有無いうむををああせせるる。宣のたまふふ。爲義ぎぎけけふ
 ととああるる。俄頃いつしうは易読えきよくを招まねき放はなせせ鶴つるの往方かうへを同どうく易読えきよくをを
 一考いつかう。この鶴つる遠とほく去さりり今いま日本やまとの地ちは留とどめめるる。琉球國りうきゅうこくは渡わたるる
 索もとめめるる。百日ひやくにちを生いだだすす。輒しづく得えるる。之これをを爲義朝臣ぎていしんののああるる。又また難がたははととり
 一層いっしやうの憂うれひをを増ますす。この國このくにの中のちうににああるる。天あまの鳥とりを索もとめめるる。いと難がたははととり
 琉球りうきゅうすすくくちちりりひひるる。容易やすき業わざはああるる。されど彼國かくにへへは到いたるる。百日ひやくにち同どうふ



地圖を
紀平治
行程を
説

法皇の御代



法皇の御代

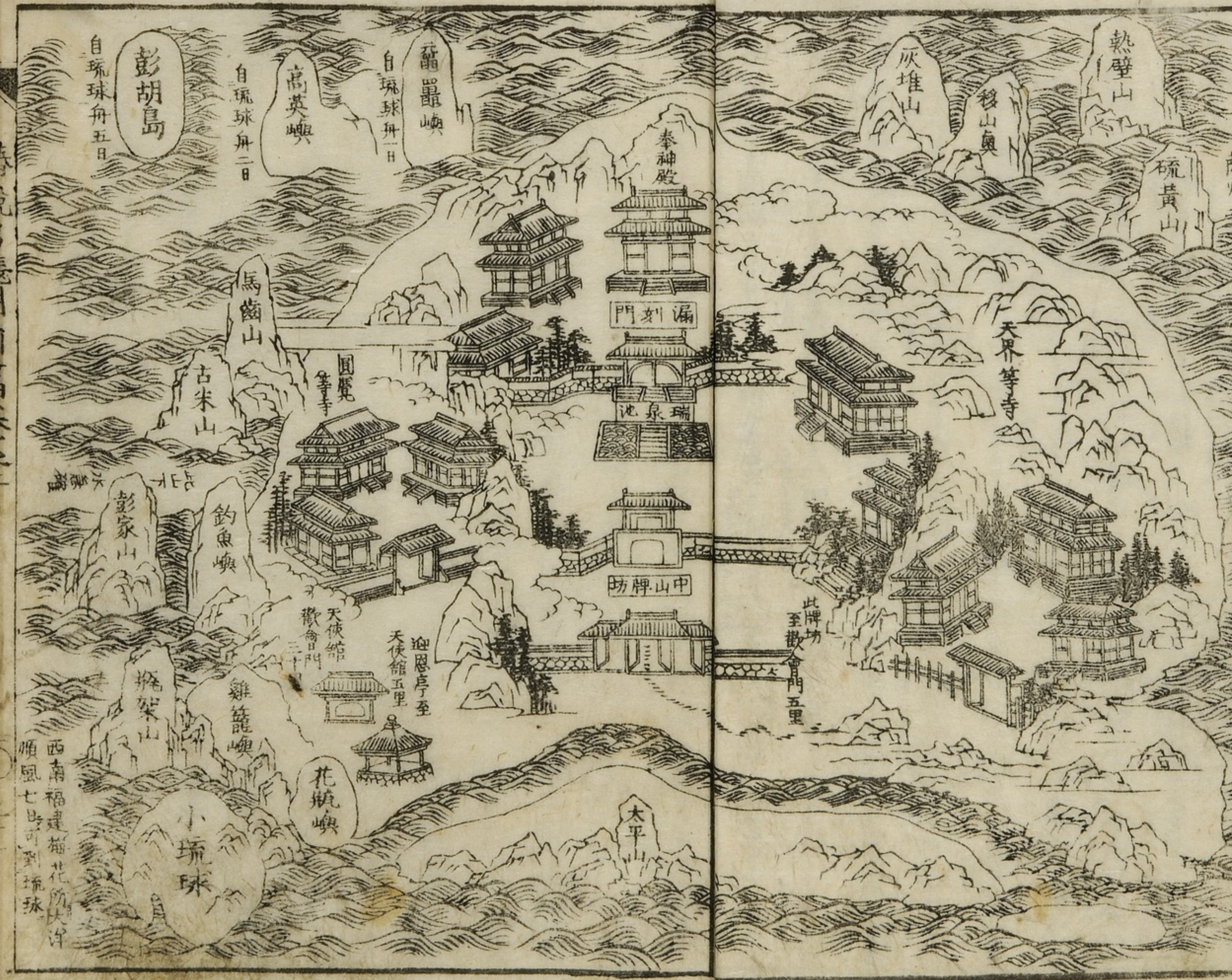
百七十里を隔るる。いふに、渡ゆ人、地理をたゞ言語を解き、
 隸を集會。首尾審は説をうゝ。宜あや。琉球ハ薩摩瀉を去して大洋三
 なし。人々衆人のやふ所をもひて。ひを定む。一と。男忠國をて。め。縣々家
 あ。と。わ。る。ひ。あり。彼鶴が本年の春南海の果み。會人と夢を告。この
 二百里はあすねる路を七日するは走りつき。易説のト筮爲義の言語一五
 十をりり。爲朝は。迷惑面はあつれ。忽地は宜あや。これあ。思ひ
 ち。あ。と。わ。る。ひ。あり。彼鶴が本年の春南海の果み。會人と夢を告。この
 平治は仔細をひかめ。直は宰府に下し。多々彼二人はその日れ中は都を出る。
 仰下されり。さて爲義朝臣はま。安堵。御所を退出。ふ。景延紀
 多ひ。上皇や。や。聴させ多ひ。と。人々日数。ひ。あ。鳥を進せ。へ。
 勅文をり。縁由をひえ。なり。百日を限り。鶴を尋出せ。き。や。ね。ひ
 へ。あ。と。わ。る。ひ。あり。彼鶴が本年の春南海の果み。會人と夢を告。この
 へ。あ。と。わ。る。ひ。あり。彼鶴が本年の春南海の果み。會人と夢を告。この
 へ。あ。と。わ。る。ひ。あり。彼鶴が本年の春南海の果み。會人と夢を告。この

琉球國の
圖説（和）
漢三才圖
會卷十三
卷六十四
乙卯（子）金
新説をよ
し（人）ぞ（推）
ふ（因）てこ
抄き

琉球國之圖

冊

東北日本國 薩州



此圖和漢三才圖會
見之

西南福建梅花所大洋
順風七時可到琉球

の島あり。その山を太平山と喚ぶ。南北より又一の島あり。これを小琉球と
いふ。南の海中より又四つの山あり。所謂硫黄山、熱壁山、移山、奥灰堆山なり。
又西北より二の嶼あり。所謂雷電嶼、高英嶼、彭胡嶋とれあり。又西より三
の嶼あり。所謂馬齒山、古米山、彭家山とあり。又二の山あり。釣魚嶼、瓶
架山とれあり。その國王を中山と号す。春宮を中城と稱し、后を中婦君と
稱し、王子を王人と稱し、武士を親雲上と稱し。その次あるものを筑
登と稱す。又官名は按司、親方、木の数品あり。また美童を里子と稱す。
唐人の子は太郎、金次郎、金吾といふ乳名あり。その言語日本に似て、更ニ異
なり。日をおてといふ。月をおつとていふ。佛をやとていふ。神をうめとてい
ふ。水をおい、火をおまつ。酒をおさけ。飯をぬ。男をおけ。女をおいる。とてい
せ。よの母をおん。あ兄、成すい。き弟をおん。刀、劔をやとていふ。衣服を

いづといふ。その餘は枚舉ふ遑ある。この國東北はこれ日本、西南は
福建の梅花所なり。大洋七日より到るべし。といふ。往昔神功皇后
三韓征伐のとき、流虬怕れ、駭の貢を献れ、去りしより以降、彼洲
人我白石硫黄島とまり。白石硫黄嶋人も又をり。彼國不到りて交
易せり。今へそのの絶えりといふ。もろは十二の嶋人のをりて渡海を
おもあり。とて君より琉球へ到る人とあり。それが一内案内といふべし。
といふ。その辯舌爽ふ。事審は速く。爲朝ふ。とていふ。ひひて。それ
は。そのを忘る。か。また彼國へ到らん。又易し。とていふ。大勢を將て。あ
彼國民疑。拒。とていふ。あ。それ。とていふ。紀平治。とていふ。只二人。沖の小嶋。れ。商
人。は。打扮。彼。外。より。便。船。とていふ。彼。鶴。を。索。へ。但。一。貨。を。と。り。て。あ。の
その。事。整。とていふ。宣。ひ。とていふ。卷。絹。練。高。瀬。の。木。綿。あ。とていふ。を。擔。け。とていふ。せ。とていふ。

往^{さき}得^えてい^い珠^{たま}を。う^うう^う懷^{なつ}ふ^て。用意^{ようい}全^{ぜん}く備^{そな}り^られ^ば。景^{けい}延^{えん}
を^を治^ちへ^く。その^{その}主^{しゅ}從^{じゆ}二^に人^{にん}。船^{ふね}より^{より}ち^ちふ^ふ。直^{ちよく}沖^{おき}の^の小^こ話^わ。熱^{あつ}き^き。彼^か
処^こより^{より}琉^{りゅう}球^{きゅう}へ^へ列^りら^ん。啓^き行^{ぎやう}多^たく。阿^あ曾^{そう}忠^{ちゆう}國^{こく}以下^{以下}。夥^{おほ}の^の家^け隸^{れき}。も^もの^の
ひ^ひや^やふ^ふえ^え送^{おく}て^てさ^さる。

椿説弓張月前篇卷之二 甲

後集

後集